

### 付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（東京医科歯科大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

#### 大学回答欄

##### 【1. 全学共通自由科目の新設】

コロナ禍において活発化しているオンライン国際交流イベントを単位認定可能な専門科目として位置づけられるように、新たに全学共通自由科目に「オンライン異文化交流」を追加した。

##### 【2・オンライン教育の実施】

①令和2年4月より全学的にオンライン講義（Zoom）を導入・実施したほか、各教員がWebClass(学習支援システム)を利用した学生指導、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用した学生参加型授業等、遠隔授業でアクティブラーニングを行うための工夫を行った。

②新たに統合教育機構内に遠隔講義支援チームを編成し、オンライン講義の実施に向けたオリエンテーションの実施、e-learningシステムであるWebClassにおける遠隔授業支援のためのコース整備、全学に向けたメールマガジンの定期配信による好事例の紹介、よくあるトラブルとその対策等の周知を行った。また、講義支援を希望する教員のサポートを行った。オンライン講義導入期以後にも継続してオリエンテーションを実施した。

③オンライン授業における教材作成時の著作物利用に関する、授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）による新制度「授業目的公衆送信補償金制度」を契約した。

④対面講義の方がより学習の質が上がるという学生からの要望にも応えるため、オンキャンパス、オンライン、オンデマンドの3つの授業形態を採用した。また、オンキャンパスの学生とオンラインの学生が同時に参加するハイブリッド型の講義も取り入れた。

### 【3・グローバル化に関する取組】

- ①完全英語履修のリーダー養成選抜プログラム「Health Sciences Leadership Program (HSLP)」について、新規履修生の選考、授業、ワークショップをオンラインで実施した。
- ②歯学科に所属するHSLP履修者が主体となって、歯学科学生と歯学系留学生の交流イベントである「歯学科学生のための国際交流networking会」を開催した。
- ③オンライン国際交流プログラムとして、本学と交流の深いタイを中心にフィンランド、オーストラリア、アメリカ、イギリス、台湾と計13回の交流を行った。
- ④留学生交流イベントとして、オンラインで順天堂大学との節分に関するイベントを実施した。
- ⑤「Discussion Café」と題する本学と早稲田大学の日本人学生と留学生の交流イベントを計2回開催した。
- ⑥海外協定校とのオンラインによるDiscussion Caféを計2回開催した。
- ⑦基礎・臨床医歯学、医療政策・産業など様々な分野においてグローバルに活躍する方々と学生との交流イベント「Find-Your-Role-Model Session」を継続して実施した。
- ⑧入学後早い段階から海外留学への意識付けすることを目的として、令和2年6月に第1学年の全学生を対象として、国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップをオンラインで開催した。
- ⑨海外派遣希望者・受講希望者に対しては「海外留学派遣前教育」をオンラインにて開講した。

### 【4.実習の再開について】

第2学年以降（専門課程）の学生の実習実施について、統合教育機構が中心となり感染対策に十分留意した実習実施マニュアルを作成し、令和2年6月という早い段階での実習再開を実現することで、学習の質の担保を図りつつ、孤立防止に寄与することができた。

### 【5.学長メッセージの周知】

新学長は、就任した令和2年4月1日に、東京に位置する医療系国立大学として、コロナ禍に正面から取り組むことは本学の使命であるとして、新型コロナウイルス感染症克服への取組を最優先課題とすること、教育・研究を可能な範囲で継続することを、学内HPに掲載するとともに、全学メールで周知した。

## 2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

### 大学回答欄

#### 【1.学生の孤立対策】

- ①学生の孤立問題が顕在化していることを受け、学部学生有志が中心となり、各学年における問題点及び解決策を学生の視点で抽出した。抽出した結果については、統合教育機構が中心となり全学的な検討を行った。
- ②特に第1学年学生が集まる教養部にて、学生が孤立しないよう、担任制の導入、学科別ミーティング、留学生・チューター・教員を交えた交流会、課外懇親会の実施等のサポートを行った。
- ③修学支援が必要な学生について、Zoomによる教育委員長等との面談（必要に応じ保護者との三者面談の場合もあり）を実施した。面談の際、必要と思われる学生には保健管理センターの受診を勧めるなど、生活支援の対応も併せて実施した。
- ④ピアサポーター(学生相互間の支援提供者)が、大学公式Twitterアカウントを開設し、匿名で気軽に相談できる仕組みを整えた。

#### 【2.メンタルヘルス支援】

- ①学生がメンタル不調に陥ることを予防するため、第1学年の全学生が受講する「スポーツ・健康科学」の中で本学の公認心理士・臨床心理士が講義を実施した。
- ②オンライン授業によって在宅が続く学生が、希望時に個別相談を利用できるよう、これまで実施していた対面・メール・電話による相談に加えて、zoomによるオンライン形式も取り入れ、支援体制を強化した。
- ③心理相談の人員を増やし、対応の幅を広げた。
- ④定期的にメンタルヘルスセルフチェックを実施し、学生の心身の状態を把握することに努め、適宜保健管理センターの利用を案内するなど、学生が悩みを一人で抱えぬための支援をおこなった。

#### 【3.感染対策設備の整備】

- ①授業を実施する建物の出入り口に新たに手洗い場を2箇所作り、非接触スタンドの検温器と各教室に空気清浄機を設置した。
- ②学生同士の談笑の場として野外にテントを設営し、昼食を取る部屋は固定し、十字型や三面アクリルパーテーションを設置して黙食の遵守とどこに座ったかを入力させて、クラスター感染予防に注意を払った。